

健康のひろば

地元の医師がアドバイス

胃カメラ検査で、ピロリ菌が陽性と診断され、整腸剤を服用していますが、現在は、強い症状がないものの、胃の調子は良くありません。入院しての除菌療法を勧められましたが、入院まで必要ですか。

(風連の四十七歳女性)

☆

消化性潰瘍(胃潰瘍や十二指腸潰瘍)は、これまではストレスなどが原因で胃の中のバランスがくずれるために起こるとされてきました。しかし、ピロリ菌が発見されてからは、ピロリ菌が胃の中に感染し、そこにストレスなどが加わったことが原因で消化性潰瘍が起るということが分かってきました(図1)。ピロリ菌は、正式にはヘリコバク

ター・ピロリといいい、大きさは2〜5ミクロン(1ミクロンは1ミリの1/1000)の大きさの細菌で、胃の中に生息しています(図2)。この菌は、強い酵素(ウレアーゼ)を自分で産み出し、アンモニアを作って人の胃の酸を中和するため、強い酸性の胃の中でも生きていけるのです。このピロリ菌は、1983年オーストラリアの研究者(ワールン、マールシャル)により初めて慢性胃炎患者の胃粘膜から分離培養されました。彼らは、この菌を自ら飲み込んで胃潰瘍になることを証明し、数年前にノーベル賞を受賞しました。

我が国のピロリ菌感染率は年代により違い、若年者では10〜40%で、中年では60〜80%以上といわれています。感染経路は、経口感染が主なものとされています。感染経路は、経口感染が主なものといわれていますが、まだはっきりしたことがわかっていません。ピロリ菌の検査方法は、(1)内視鏡を用いた方法で粘膜を直接つまんで培養する方法、(2)内視鏡を用いない方法で呼吸

図2



ヘリコバクター・ピロリ電子顕微鏡写真

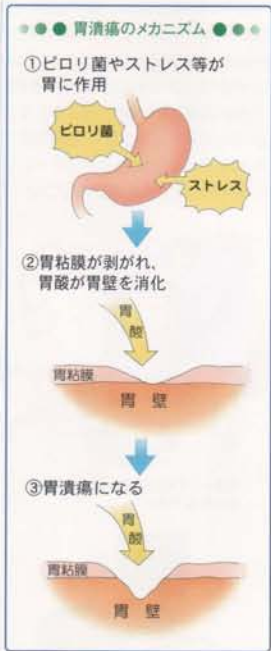
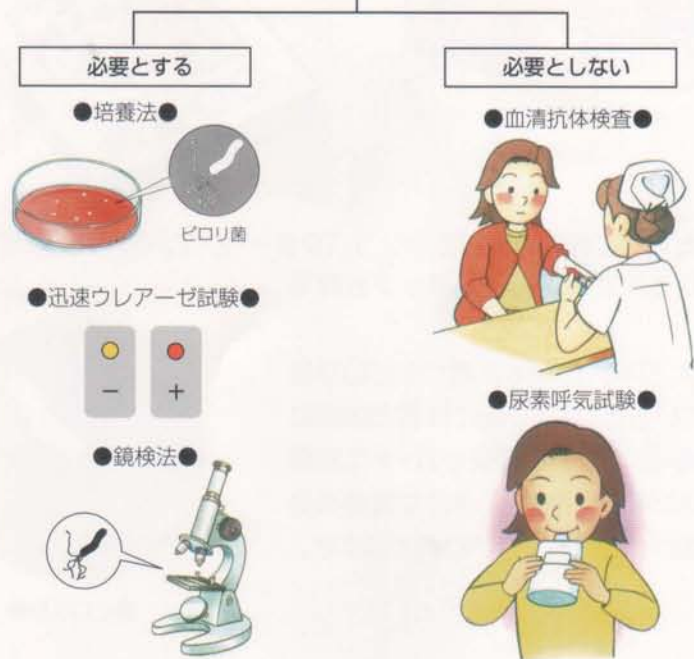


図1

図3 内視鏡による生検組織を



を用いる尿素呼気試験や血液や尿で調べられる方法があります。尿素呼気試験が最も簡単に検査結果がすぐに分かるため、最も臨床の場で利用されています(図3)。

ピロリ菌に感染したら、必ず消化性潰瘍になるといっても、ではなく、慢性胃炎にとどまっている患者さんもいます。それがなぜなのかは、まだ分かっていません。ピロリ菌に感染していることが、予め分かっている患者さんは、できれば胃カメラ検査を受け、消化性潰瘍がないか

を確認することをお勧めします。そして、担当医からピロリ菌を除菌する必要があるといわれた場合は、ピロリ菌は細菌であるため抗生剤2種類と胃酸分泌抑制剤1種類の合計3種類の薬剤を7日間服用する必要があります。副作用は、下痢、じんましん、口内炎などですが、重篤になることは多くありません。じんましんが出た場合は、その時点で休薬してもらいます。除菌の成功率は、約80〜85%でほとんどの患者さんが成功します。当院でこれまで千名

の患者さんに除菌療法を行ってきましたが、成功率は90%以上と報告されています。報告より高くなっています。除菌の失敗する方は、除菌治療中にタバコを吸ってしまった方、除菌薬を飲み忘れてしまった方などです。除菌治療は、基本的には外来で行いますので、消化器専門医にご相談ください。

(たに内科クリニック院長・谷光憲)



ピロリ菌は早く除菌を